

# 千葉 沙織

(ちば・さおり)

## 作品

### その先、鬼五郎溪谷につき、

(そのさき、おにごろうけいこくにつき、)

#### あらすじ

八月。宵闇。福島県田村市にある鬼五郎溪谷。

震災から七年後のこの場所に、二人の男（除染作業員）が迷い込む。そこで男たちは地元の若い姉妹とその父親が営んでいるというスナック「灯台」へ招待され、手厚くもてなされる。

夜が更け、満月が山あいから顔を出すと、今まで見えなかったものが月明かりに晒されていく。

それはまるで線量計のアラームを鳴らし続ける放射性物質のように、自らの存在を高らかに謳う。

#### 登場人物構成

男性役	4名
女性役	2名

#### 上演予定

なし

## 一言

“見えないけどそこに確かにあるもの”を戯曲にしたいと、2015年頃から構想を温めていたこの作品を、今回この劇作家WSで初めて形にする機会をいただけたこと、心から感謝致します。

作品を通して鬼五郎溪谷へとトリップしていただけたら、背筋に冷たいものを感じていただけたら、誰より鬼五郎が喜ぶと思います。